

成長企業のリーダーが語る

新時代のビジネスを創発するオフィス

3月に東京・大手町で開催された「理想のオフィス研究会」(サンケイビル主催)。コクヨRDIセンターの齋藤敦子氏がファシリテーターを務め、変化の早い時代に応じたこれからの理想のオフィスを話し合った。インターネット広告の効果測定分野で注目される「ロックオン」の岩田進氏、手軽に楽しめる動画コンテンツ制作を手がける「ディー・エル・イー」の椎木隆太氏、サンケイビルの稲村政志氏が出席した。

TOPICS 1

オフィスとは、価値を生み出す場

齋藤 人が集まり、ともに働く場であるオフィス。成長企業の経営者お2人は、従業員の活躍や企業成長についてどのようにお考えですか。

岩田 大阪を本社に、東京、ベトナム、アメリカに拠点があります。IT業界は人材の流動性が高いため、人を集めることも、そこで働く満足度を高めることを重視して経営しており、調査機関(※)の調べで「働きがいのある会社」として3年連続で世界の上位にランキングされました。

人・物・金・情報の経営リソースの中で、いま最も貴重なのは「人」であると思います。その人が集まるオフィスが重要であることは言うまでもありません。

齋藤 人中心に経営していく上で独自の工夫はありませんか。

岩田 会社近くの住宅街に木造二階建ての一軒家を借り、従業員が毎日集まる場を提供しています。一緒に食事したり寝泊まりすることでコミュニケーションが増え、深い人間関係の構築につながっているのです。

ひいては会社の強みにもなるでしょう。

椎木 私共コミュニケーションを重視します。エンターテインメント企業ですから、クリエイター、営業、プロデューサー…。多



様な人が集まる中で、コミュニケーションをどんな取っていいけるオフィス環境を求めています。



当社のホームページ作りはメンバーに任せて立ち上げました。「面白ければなんでもOKな会社」「自由な会社」と書かれて、良い意味で驚きました。クリエイターに力を発揮してもらうには自由な発想を妨げない環境が大切だと思ってきましたが、期待以上のものを会社として提供できているから、翼を得たような感覚があるのでは。

齋藤 クリエイティビティを発揮してもらうための努力をされているんですね。ビル会社の立場からいかがですか。

稲村 一般的に、自宅にいる時間よりもオフィスにいる時間のほうが長いものです。SIGATEでは、オフィスビル内に気分転換できる工夫や、自宅にはないような設備を充実させていきたいと考えています。例えばトイレのハンドソープひとつとってもこだわったり、壁面緑化で緑を見ていただく、屋上庭園で休憩していただくなどリフレッシュの場をご提供できればと思います。ハード、ソフトの両面から、自由な創造・発想ができる空間づくりをお手伝いしていきます。

※働きがいのある会社の世界的な評価機関「Great Place to Work (R) Institute」

TOPICS 2

人脈をつなぎ、付加価値を拡大

岩田 大阪は東京よりも雇用側の企業が少なく、最も大切な「人」を集める上で大きなメリットがあります。

入居しているサンケイビルさんの「フリーゼタワー」のファシリティも十分で、自社オフィス内は仕切りのないオープンな空間作りをしています。

齋藤 拠点同士お互いに、画面で24時間様子が見えるようにされているのですね。

岩田 大阪ではエンジニアの採用がしやすい反面、東京にいる営業どうしても距離があります。コミュニ



ケーションを深め、製品へのフィードバックを早めることに注力しています。

齋藤 ディー・エル・イーさんは、作中の秘密結社『鷹の爪団』と同じ麹町にオフィスを構えているらしいですね。

椎木 作品で縁ができたので、少しでも街を盛り上げられればと移転しました。周辺企業や同じオフィスビルの会社さんに声を掛けて、イベントを開くことも。特に部長層は子育て世代であり、仕事のキープレーヤーにもかかわらず、人脈を広げる機会が不足しています。食事会などセッティングすると喜ばれますね。

稲村 フリーゼタワーでは、各テナントの皆さんにお声掛けしてゴルフ大会も開催させていただきました。

岩田 入居者としては、テナント間のコミュニケーション面でも支援いただき、オフィスは建てて終わりではなく、快適な環境を提供し続けることがその方がバリューであるという方針をお持ちだと実感します。

齋藤 成長企業は、オフィスの立地やビルのハードはもちろん、人と人、新しいビジネスとビジネスのつながりを求めているのですね。

TOPICS 3

創造空間の維持が、オフィスピルの使命

齋藤 オフィスでの働き方は今後どう変わっていくとお考えですか。

岩田 まず人が集まり、そこからできることを考えるのが従来型で、当社もそう。それに対して最近はある目的のために人が集まるプロジェクト型が増えて

います。今後、規模を追求するには、従来型のほうが発展性を感じます。

椎木 アイデアを出せる環境作りは実に難しいもの。例えばファミリーレストランのような、ざわつきながらも邪魔されない環境を社内にも作れれば。

稲村 SIGATEでは、コミュニケーションツールも備え、ざわさわ感を持っていただきながら、仕事や打ち合わせができるスペースをご用意しています。

齋藤 創造的な企業ほど空間の質を求めています。見た目の豪華さよりも、インプットとアウトプットが効果的に行えることが重要で、いろいろな刺激があり創発できる場が理想です。今後のオフィスビルについてはいかがですか。



椎木 私の理想のオフィスは「街の誇り」。企業の人はその企業が、街の誇りに思うようになれば。ビル会社に取り持つてもらえるとうれしいです。

岩田 外国人従業員を含め、社会が変化しています。働き方とともにオフィスも変わっていく必要があります。

齋藤 2社のような革新的な企業を応援することが、日本経済の成長につながります。そのために、新しいサービスを拡充した、SIGATEのようなオフィスビルに期待が高まります。



(右から)
コクヨ株式会社
RDIセンター 主幹研究員
齋藤 敦子氏

株式会社ロックオン
代表取締役社長CEO
岩田 進氏

株式会社ディー・エル・イー
代表取締役
椎木 隆太氏

株式会社サンケイビル
ビル開発部長
稲村 政志氏



サンケイビルの
ミッドサイズオフィスビル



「S-GATE」

成長企業のニーズに対応

今オフィスには、デザインや機能性、環境性が特に求められ、多様な人材が知的生産性を高められる、より戦略的な空間へのニーズが高まっている。このためオフィス性能にこだわり、快適性、安心・安全・環境性、BCP、ソフト面でのテナントサービスを充実させたのがS-GATEだ。

第二号「神田」6月着工

15年7月竣工の赤坂・第一号物件に続き、今般神田で第二号物件に着手、17年に竣工予定。東京都心5区のJRや地下鉄の主要駅近くを中心にシリーズ展開していく。サンケイビルは、S-GATEを通して企業の「事業力」「人材力」「ブランド力」を高め、ビジネスの成長をサポートしていく。

www.s-gate-office.com